

3) 妊娠と避妊

(1) 妊娠の成立と経過

妊娠とは日本産科婦人科学会では、「妊娠とは受精卵の着床に始まり、胎芽または胎児及び付属物の排出を持って終了するまでの状態」¹⁵⁾と定義している。射精された精子と排卵された卵子が合体し（受精）受精卵になり、受精卵が子宮壁に接着する着床という現象（受精後6～7日目）で妊娠は成立する。着床後、胎児と母体は図18のように経過していく。

また、妊娠期間は最終月経の第1日目を妊娠満0日といい、この日を含む7日目が妊娠満0週である。つまり、満4週にはいると次の月経が来ないことに気付くことが多い。

(2) 避妊

避妊とは妊娠を避けることであり、国や民族、習慣、宗教、伝統、文化、時代、社会環境などにより様々な方法がある（表5）。

わが国の避妊法は、男性側が行う避妊法の装着型コンドーム（以下コンドームという）が主流で、若者にとっても最も利用されている避妊法（表6）といえる。コンドームは入手が容易で適切に使えば高い避妊効果が得られ、性感染症の予防にも有効である。しかし、性感を損なう、性交が不自然になる、めんどくさいなどを理由に利用されないことも多い。また、男性側が行う方法のため、男性の協力や装着方法の正しい習得が必須となる。よって、若者に主流のコンドームについては、その必要性だけではなく正しい知識と装着方法の習得、性交の相手がコンドーム使用を承諾するための交渉術（コンドームネゴシエイト）などを学ぶ機会が必要である。こういった機会は、性における男女不平等を心理的社会的側面から考える良い機会になる。

また、低用量ピルはわが国において1999年

に認可され、女性側が行える避妊法で避妊効果も高いことから注目されたが、副作用への危惧や産婦人科を受診しないと入手できないなどの理由でなかなか普及しないのが現状である（図19）。避妊効果の高さや副作用などを宣伝しながら若者が入手しやすい体制を整えていくことが必要である。

4) 性感染症（Sexually Transmitted Disease : STD）

性感染症とはセックスやキス、ペッティングなどの性的行為によって感染するすべての病気のことを言う（表7）。1998年にWHOは、性行為により感染するが性器そのものには症状が出ないもの（エイズやB型・C型肝炎など）も含まれるため、STI（Sexually Transmitted infection）という表現を採用するようになった。

性感染症は「性器結合」という狭義のセックスだけではなく、口腔性交、肛門性交、キスなどによって感染する。特に、性行動が活発化している若者の間に蔓延していることは、前述した思春期の性行動の特徴が大きく影響しているだけではなく、コンドームで予防できない性感染症も存在するからである（表8）。また、性感染症イコール不特定多数のセックス、性感染症に罹るような人などという偏見を生みやすく、自分には関係ないなどと言う無関心な態度を助長していることで、感染の拡大へとつながっていく¹⁶⁾。

思春期の子供たちは、性感染症に限らず妊娠についても「自分のこと」として考えられないことが多い。そのため、基本的な知識に触れるだけでなく、「もし、今妊娠したらどうする？」「もし、パートナーが性感染症に罹ったらどうする？」などというテーマで話し合うことで、自分や相手の身体や心だけではなく人間関係や生活がどう変化するなどを臨場感を持って考えることができる。

f. 性の健康と性の権利

1995年アジアで初めて矛派まで開催された第2回世界性科学学会に続いて、1997年スペインで開催された第13回世界性科学学会におけるバレンシア宣言で、性の健康、すなわちセクシュアル・ヘルス推進のための10か条が表6のように提起された¹⁷⁾。

この宣言を提唱したE. コールマンは、セクシュアル・ヘルスを推進するためには、それが基本的な人権であるという考え方を推進しなければならないとしている。そして、このバレンシア宣言が決議された後、世界性科学学会(WAS)は委員会を設置、検討を開始した。その結果が1999年の第14回世界性科学学会で表7に示すように「性の権利：セクシュアル・ライツ宣言」として批准され、この宣言を世界中で推進していくことが採択された¹⁸⁾。

この宣言を受けて世界は大きく動き出し始めた。真っ先に1974年にWHOから出された報告書「セクシュアル・ヘルスと保健専門職の訓練」が改訂されたり、同じくWHOが招聘してアメリカ地域協議会がもたれ、「セクシュアル・ヘルスにおける保健セクターの役割：セクシュアル・ヘルスの概念化と行動の規定」の青写真ができあがるなどの動きが出ている。いずれにしてもセクシュアリティは人間が生まれながらにして持っている自由、尊厳、平等に基づく普遍的な人権である。

昨今、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス、性の商品化(性産業)、ストーカー、児童売春・児童ポルノなど、性に関するトピックスが社会を賑わせている。儒教の影響ともいえる男女の二重規範が批判を受け、女性や子供のエンパワーメントが求められている。国による文化や習慣の違いはあるが、人としての権利は守られなければならないことは全世界、共通のもので

はないだろうか。

人間は性的な存在であり、性と生は切り離すことができない。性が問われることは、生が問われることである。セクシュアリティとは、一人一人が自分の人生を生き生きと生きていくための原動力なのである。

E. 指導者の機能と役割

1. ピアカウンセリング実践の環境づくり

a. コーディネーターの機能と役割

思春期ピアカウンセリングを実践するためには、地域や学校の理解を得て協力体制を整えるための環境づくりが必要となる。ここでは、平成12年度から実践している福島県県北保健福祉グループ事務所の例を取り上げてみる。

1) 保健所内での検討

- ①平成12年度地域保健医療推進事業に「ピアカウンセラー養成者(指導者)養成事業」計画書を提出する。
- ②ピアカウンセリングの実際場面の見学
- ③ピアカウンセラー養成のための協力機関の選定
- ④役割の明確化

(1) 保健所の役割

- ・市町村の育児等健康支援事業「思春期における保健・福祉体験学習事業」への支援。
- ・ピアカウンセラーの活躍できる広域的な事業企画と運営
- ・学校への事業説明と協力要請

(2) 市町村への期待

- ・育児等健康支援事業「思春期における保健・福祉体験学習事業」の実施
- ・ピアカウンセラーの活躍できる(思春期の)住民を対象とした事業の企画と運営。

(3) 教育機関への期待

- ・ピアカウンセラーの養成と派遣(看護学部)

・ピアカウンセリングに参加する高校生の推薦

2) 福島県立医科大学看護学部との話し合い

平成12年2月に、福島県立医大看護学部とピアカウンセラー養成のため話し合い。

3) 教育関係機関に対して

①高校に対して、ピアカウンセリングの理解と実施時の生徒派遣協力

②教育委員会に対して、高校生対象に実施することの了解と高校に協力を求めること
の了解

4) 市町村に対して

ピアカウンセリングの理解とピアカウンセリング実施時の会場確保を依頼する。

b. ピアカウンセラー養成者（指導者）の機能と役割

1) ピアカウンセラーの養成

ピアカウンセラー養成者（指導者）の役割は、質の高いピアカウンセラーを養成することであり、養成したピアカウンセラーを守ることである。

(1) 質の高いピアカウンセラー養成の必要性

ピアカウンセラーの活動期間は短い。またピアカウンセラーといっても、若者と同程度の知識では教育的効果はない。“性＝生”に関する正しい教育を受け、ピアカウンセリングの理論とスキルを学び、十分に訓練を積む必要がある。またピアカウンセラー自身がピア意識を体験し、その有用性を実感する場が必要である。

このようなピアとしての学びや体験は、ピアカウンセラー自身が主体的に活動する上での原動力となるだけでなく、大人側にとっても、「ピアカウンセラーに安心して任せよう」「ピアカウンセラーの力を信じて見守ろう」という気持ちを起こさせるのに必要である。

(2) ピアカウンセラーを養成するに当たって確認すべきこと

ピアカウンセリング活動は、行政や教育機関、地域との連携の中で行われる活動である。ピアカウンセラーを養成するに当たっては、養成後のピアカウンセラーの置かれる状況を把握しておく必要がある。

まず、活動を運営するコーディネーターはどの程度ピアカウンセリングについて理解しているのか、ピアカウンセリング活動事業のどの段階にあるのか、継続的な活動が可能なのか、ピアカウンセラーをどのように活用しようとしているのかなどである。ピアカウンセラー養成講座を修了した受講生の多くは、「学んだことを活かしたい」「自分たちもやってみよう」という高いモチベーションを持つことが多い。しかし活動の場が整っていなかったり、短期間で事業が終了してしまったり、本来の役割である活動よりも、活動の場を作るために多大なエネルギーを使うことになるからである。

次にピアカウンセラーが実践活動に向けて準備する場と、常に寄り添っていける人がいるかを把握する必要がある。

ピアカウンセラーは、養成講座を受けただけで実践活動ができるわけではない。学んだことを自分の中で消化し、実践に向けて準備するための時間と場所が必要である。準備する過程で個々の意見を出し合い、検討し合うことは、ピアカウンセラー自身がピア意識を体験し高めていく上で重要なことである。時にはトラブルになったり、方向を見失ったりすることも多いので、ピアカウンセリング活動を十分理解した上で、見守り・サポートする人の存在は必要不可欠である。

(3) 養成者自身が自己の価値観を意識すること

「ピアっ子は養成者を写す鏡である」とさ

えもいわれるように、養成者の価値観は、その後のピアカウンセラーの活動に大きな影響を与えることがある。特にセクシュアリティに関しては、ピアカウンセラー養成セミナーの内容が、その後の実践講座のモデルになりやすいことを念頭に、常に自己の価値観を客観的に見つけ、自己の価値観の特徴を把握しておく必要がある。そのためには常に多くの人と交流を持ち、自分を見つめ、何がピアカウンセラーに影響を与えているのかを知る努力が必要である。一人の養成者の価値観による影響をできるだけ避けるために、ピアカウンセラー養成セミナーは複数の養成者で行う事も必要である。

2) ピアカウンセリング実践の環境づくり

ピアカウンセリングの実践方法は大きく分けて2つある。1つはセクシュアリティ講座のように集団を対象としたピアカウンセリング実践であり、もう1つはピア・ハウスのように個別を対象としたピアカウンセリング実践である。

いずれの場合も主役は若者であり、寄り添うのはピアカウンセラーである。その若者同士ができるだけ多く出会えるよう、また自由に安心して本音で語り合えるような環境作りが必要である。

(1)多くの若者が安心して参加してくれるよう、コーディネーターと共に、事前に高校をはじめとした教育機関や関連機関に、ピアカウンセリングを正しく理解した上で、若者の参加を促してもらえよう働きかけが必要である。具体的にはピアカウンセラーとの話し合いの場を設け、当日のプログラムの説明を行うなどである。

(2)ピアカウンセリング実践当日までの環境づくり

①学校という場から離れた会場設定が望ましい。

親や教師、勉強という緊張の枠を離れ、また〇〇学校の学生という制服から解放されて、のびのびと自分の本音を語れるような場所が必要である。公民館や保健センターなど若者が自由に入れる会場を選ぶことが望ましい。

②ピアカウンセラーの主体性を尊重した準備

事前に配布するポスターや、当日の会場設営、タイムスケジュールは若者のピア意識を最大限生かせるように、できるだけピアカウンセラーの意見を尊重して準備を進めることが望ましい。

(3)ピアカウンセリング実践当日の環境づくり

①ピアカウンセラー養成者（指導者）者は黒子に徹すること

事前の準備が十分整っていても、実践の場に立つピアカウンセラーは緊張していることが多い。シナリオ通りに進まないことが殆どである。ハラハラ・ドキドキはあっても黒子に徹して優しく見守ることがなにより大切である。

②大人の干渉を排除する。

若者とピアカウンセラーとの空間をつくることは重要である。大人の入室制限を行ったり、入室時のマナーを十分説明しておくことも必要である。

2. コーディネーターとの連携

a. コーディネーターの機能と役割

ピアカウンセリングを実施するためには、事業を立ち上げ調整するコーディネーター（調整役）が必要となる。多くの場合、地域保健を担う市町村等の保健師や助産師が担当することになる。

ピアカウンセラー養成者から思春期ピアカウンセリングを実施するためにコーディネーターを依頼する場合と地域保健の担当者からピアカウンセラー養成を依頼される場合がある。どちらにしても、思春期ピアカウンセリング

を円滑に実施するためには、ピアカウンセラー養成者（指導者）者、ピアカウンセラー、コーディネーター、若者に関わる関係者がそれぞれの役割を認識して連携をとることが必要である。

コーディネーターは企画書作成から、会場の手配、高校や参加して欲しい若者に関係する団体等に事業説明をして参加協力を求めると同時に、ピアカウンセラーが活動しやすいように最大の配慮を行うようにする。安心して活動できる空間と時間の確保、特に参加する若者たちが大人を意識しないで語れるようにスタッフなど大人との距離を離すことは大事な配慮点である。

b. ピアカウンセラー養成者（指導者）の機能と役割

ピアカウンセリング活動を展開する上で、コーディネーターとの連携は重要であり、役割分担を明確にしておくことが大切である。

企画書の作成や会場の準備、関係機関との連絡調整、ピアカウンセリング活動の環境整備はコーディネーターの役割である。事前の準備だけでなく、当日の細かな分担も細部にわたって話し合うことが必要である。実践活動の準備の段階でピアカウンセラーとコーディネーターが直接連絡を取り合う事も必要であり、その連絡調整を密にすることも養成者の役割である。

また、ピアカウンセリング活動は行政機関や教育機関との連携の中で行われる活動である。時にはピアカウンセラーに対する要求が過大であったり、大人サイドの価値観による展開を要求されることもある。しかしピアカウンセラーの活動には時間的にも内容的にも限界がある。ピアカウンセラーができる範囲を見極め、大人サイドにブレーキをかけさせたり、要求を部分的に濾過してから学生に伝えるなど、も心掛ける必要がある。

3. ピアカウンセラーへの寄り添い方

a. ピアカウンセラー養成者（指導者）の立場から

①ピアカウンセラー自身がピア意識を作れる状況作り

ピアカウンセラーは自分たちでプログラムを作り上げたり、学習しながら、自分たち自身のピア意識を作っていく。その体験の中で自分の気持ちを伝えることの難しさや心地よさを実感し、自分らしさを発見し見つけていく。その過程を体験してはじめて若者を対象としたピアカウンセリング活動ができるのである。お互いの意見を十分出し合えるよう、見守ることが大切である。

②ピアカウンセリング活動を進め、学びを深めて行く中で、あれも伝えたい、これも伝えたい、という思いを募らせていく。知識が深まれば深まるほどピアエデュケーションに陥りやすい。常にピアカウンセリングとは何かを問い直し、知識を伝えるのではなく、一緒に考えるという姿勢を見失わないよう、時々軌道修正することも必要である。

③ピアカウンセラーの力を信じて見守ることが重要である。

ピアカウンセリングの前提は「人間は機会があれば、誰でも自分で解決する力を持っている」ということである。この前提のもとにピアカウンセリング活動が行われる。具体的に実践するピアカウンセラーの力を信じて見守ることは、即ピアカウンセラーの実体験として現れる。大人の価値観を押しつけるのではなく、ピアカウンセラーの力を信じて見守ることが重要である。

④事後評価と振り返りを重要視する

実践活動後の振り返りは、学びを共有しピア意識を深める場になる。知識やスキルの大切さや不足を実感する場でもある。実践まで

のプロセスを評価すると共に、必要に応じてフォローアップの場を設けるなども大切である。

⑤ピアカウンセラーに対するピアカウンセリングも必要

ピアカウンセリング実践は、その準備過程において自分自身と向き合うことが多い。実践による学びや成長が大きい一方、ピアカウンセラーの負担も大きい。場合によっては「もう辞めたい」と申し出てくるピアカウンセラーもある。ピアカウンセラー自身が、それまでの活動をゆっくり振り返れるよう、ピアカウンセリングすることも大切である。

⑥ピアカウンセラーとピア意識を持って関わる

ピアカウンセリング活動は「ピア」という仲間意識の元で行われる活動である。養成者自身がピアカウンセラーとともに、ピア意識を持って関われる関係作りが何より大切である。

b. ピアカウンセラーが指導者に求めること

ピアカウンセラーがピアカウンセリングをやりやすい環境を作っていくために指導者に以下のことを求めている。

1) 自分の価値観を押し付けない

養成者に声を大にして求めたいことは、自分の価値観をピアカウンセラーに押し付けないでほしいということである。よくセクシュアリティの価値観で人により異なるのが、「中絶」についてである。中絶は絶対にしてはいけないという人もいるだろうし、してもよいと答える人もいるだろう。どちらの考えも間違っていない、これらは正しい答えというものが存在しない。ピアカウンセリングで大切なことは、中絶の善悪を判断することではなく、その人の決定を寄り添って支えていくことである。だからこそ、自分の答えが絶対であると思って人に対して押し付けてほし

くない。養成者が自分の価値観を押し付けてしまうとピアカウンセラーが自由に動けなくなってしまふことがある。ピアカウンセラーは養成者の価値観を受けたピアカウンセリングしかできなくなり、押し付けのピアカウンセリングになってしまう。

2) 寄り添う人としての機能と役割

ピアカウンセラーに寄り添い支えていく存在として、以下の機能と役割を期待している。

(1) コーディネーターとの調整役

集団に対するピアカウンセリングを行う時にはピアカウンセラーだけではできない。各学校の受講生はどのくらいであるとか、本番に使うものは何か、準備に必要なものは何か、集まる場所の確保など、コーディネーターに調整してもらいながら進めていく。基本的にはピアカウンセラーがコーディネーターと話をして本番までの調整をしていくのだが、コーディネーターを行っている人の多くは行政の人である。行政のやり方というものは、どうしてもピアカウンセラーのやり方とはピアカウンセリングに対する考えや、求めているものが異なったりしてしまうことがある。そういうときに、中に入ってまとめて欲しい時がある。

(2) ピアカウンセラーの方向性・知識の修正

自分たちの方向性というのもずれてしまうことがある。1つのピアカウンセリングというものをつくには多くの時間がかかる。何回も集まり、自分たちが「伝えたいもの」を作っていく。「伝えたいもの」というのは、決まった形がないので知らず知らずのうちに分からなくなってしまうことがある。伝えたいことがわからなくなると、「あ～やらなくてはいいけない」「こうしなさい」というようなやり方だけを教えるピアエデュケーションになってしまう。寄り添う人は、ピアカウンセラ

一たちがどうしても自分たちで方向性を修正できない時に、手を差し伸べるという役目がある。これを行うには、ピアカウンセリングというものを知っていかなくてはならないし、ピアカウンセラーたちが寄り添う人を『ピア（仲間）』と認めていかなくてはうまくいかない。また、寄り添う人というのはどうしてもコーディネーターが行うことは難しい。コーディネーターという役割と、学生を寄り添って支えるという役割は時には相反することがあるからである。

知識の確認というのも寄り添う人の役目であると思われる。集団に対するピアカウンセリングを行うにあたって絶対に忘れて欲しくないのは、ピアカウンセラーというのはプロフェッショナルではないのだが、カウンセラーに伝えるものに関してはしっかりと責任を持たなくてはならない。STDなどの情報を伝える時に間違った情報を伝えっぱなしにするのは、カウンセラーに対して無責任である。カウンセラーはそこで初めて知ることがあるかもしれない。もし、新しい知識であればそれを信じてしまう。ピアカウンセラーも自分たちで勉強をすることによって正しい情報を提供しようと努力するであろうが、寄り添う人というのはリハーサルのような大事な時にピアカウンセラーが伝える情報は正しいことであるかどうかを確認することが必要である。

(3) ピアカウンセラーのパワーレス時におけるエンパワーメント

どんなことをやってもそうであると思うが、疲れてしまいもうやめたいというような、「パワーレス」になることがある。私自身も経験したし、他のピアカウンセラーからも相談されたこともある。パワーレスになること事態は決して悪いことではないと思うのだが、それをパワーレスのまま放っておくことが問題になる。パワーレスには様々なこと

でなる。付き合っていた人と別れたとか、学校の成績が思わしくないというようなピアカウンセラーの生活に関するようなこと。集団に対するピアカウンセリングを作っていく過程で、行き詰ってしまっている、本番でうまくできなかったとか、電話相談で嫌がらせ電話を取ってしまい驚いてしまったというようなピアカウンセリングを行っていく過程でのことなどがある。その中でも多くのピアカウンセラーが悩むことというのは、「自分は本当にピアカウンセラーに向いているのであろうか？」ということである。これは、ピアカウンセリングというものを理解し始めたころになりやすいと私は思う。話し合いのときに人のことを聞くのが不得意であるなどの理由で、自分の性格ではピアカウンセラーには向いていないと考えるのである。

なぜピアカウンセラーがパワーレスの時に寄り添う人の力が必要であるかということ、ピアカウンセリングがつまらないものにならないようにするためである。また、パワーレスになっているピアカウンセラーが「カウンセラーの悩みに本当に対応できるのか？」ということも見ている必要がある。本当に自分が悩んでいる時、人のことというのは頭に入りにくいものである。カウンセラーが悩んで相談してきていることに対して、真剣に話を聞ける状態でない時には、ピアカウンセラーに休みを与える必要もある。ピアカウンセラーにあったときにそのピアカウンセラーがどのような表情をしているのかなど確認していってほしい。

2. 学会発表

1) 高村寿子・前田ひとみ・橋本充代・渡辺純一:A New Strategy of Youth-to-Youth Education in Japan(1),第18回ヘルスプロモーション健康教育世界会議,2004.4.メルボル

ン

2) 橋本充代・前田ひとみ・橋本充代・渡辺純一:A New Strategy of Youth-to-Youth Education in Japan(2) A practical Model in T Prefecture, 第18回ヘルスプロモーション健康教育世界会議, 2004.4.メルボルン

引用文献

- 1) 間宮武: 性の科学シリーズ①『男と女 愛は女だけのものですか?』、学校図書、pp. 6-7 (1994)
- 2) 黒川義和: 性科学『助産学体系 6 助産業務管理、地域母子保健、性科学』(青木康子、加藤尚美、平澤美恵子編)、日本看護出版協会、p.161 (1991)
- 3) 山内俊雄: 岩波科学ライブラリー74『性の境界 からだの性とこころの性』、岩波書店、pp. 104-106 (2000)
- 4) 橋本秀雄: 『性のグラデーション 半陰陽児を語る』、青弓社、pp. 178-179 (2000)
- 5) 田能村祐麒: 性教育の実践上の諸問題、『性教育の当面する課題と実践研究』(東京都幼・小・中・高性教育研究会編)、東京都幼・小・中・高性教育研究会、p.6 (1990)
- 6) 松本清一: 性の科学シリーズ②『女性としての性とその一生』、学校図書、p.4 (1994)
- 7) ミルトン・ダイヤモンド、アーノ・カーレン: 『人間の性とは何か』(田草まゆみ訳、福島章、宮原忍 日本版監修)、小学館、p.151 (1994)
- 8) 前掲書 5)、p.10
- 9) 現代性科学・性教育事典編集委員会: 『現代性科学・性教育事典』、小学館、p.154 (1995)
- 10) 前掲書 3)、pp.104-105 (2000)
- 11) 前掲書 11)、p.166 (1995)
- 12) デスモント モリス: 愛の欲求12段階、現代性教育研究月報 第17号、pp. 135-139 (1985)
- 13) 日本性教育協会編: 『青少年の性行動—わが国の中・高・大学生に関する第5回調査報告—』、日本性教育協会、p.9 (2000)
- 14) 木原雅子: 早急に求められる若者へのSTD/HIV予防教育、家族と健康、第560号、日本家族計画協会、pp.4-5 (2000)
- 15) 新道幸恵編集: 新体系看護学31 母性看護学②、『妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護』、メヂカルフレンド社、p.4 (2003)
- 16) 松本清一監修: 『性・セクシュアリティの看護』、建帛社、p.145 (2001)
- 17) イライ コールマン: 21世紀における性の健康と権利—その前進と展望、現代性教育研究月報、第18巻10号、p.7 (2000)
- 18) 前掲書 15) p.7

資料1.全国進捗状況 (平成15年10月現在)

	都道府県市名	取り組みの段階	具体的展開
1	青森	・ 環境作り 演題〈思春期健康教育とピアカウンセリング〉	平成12年度弘前保健所にて講演 平成15年8月母子保健指導者研修会(青森市)にて講演
2	岩手 (一関保健所)	・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(4年目)	平成12年度先進地小山市視察 平成13年度から3ヵ年計画実施 “ピアカウンセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 自治ピアによるピアカウンセリング出前講座受講 平成14・15年度ピアカウンセラーの養成中央派遣(厚生労働科学研究班実施) 平成14・15年度ピアカウンセリング講座の実施
3	秋田 (秋田中央健康福祉センター)	・ 環境作り ・ ピアカウンセリング講座の実施(3年目)	平成13年度“ピアカウンセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成14・15年度ピアカウンセラーの現地養成および中央派遣(厚生労働科学研究班実施) 平成14・15年度ピアカウンセリング講座の実施
4	仙台市	環境作り	平成16年1月6日青葉区にて研修会開催
5	福島 (県北保健所) ↓ (県北保健福祉事務所)	・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(5年目)	平成11年度先進地小山市視察 平成12年度ピアカウンセラー指導者研修会 “ピアカウンセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成12年・13年度ピアカウンセラー現地養成およびピアカウンセリング実施 平成13年度地域社会振興財団現地研修会開催 “ピアカウンセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演と自治ピアによるピアカウンセリング出前講座受講 平成14年・15年度ピアカウンセラーの養成中央派遣(厚生労働科学研究班実施) 平成14年・15年度ピアカウンセリング講座の実施 平成15年度ピアスペース開設

6	栃木 (5健康福祉センターと宇都宮保健所)	ピアカウンセリング講座の実施(2年目)	平成14年度3ヵ年ピアカウンセリング全県下立ち上げ実施計画 平成14年度ピアカウンセラー公募 ピアカウンセラー養成をとちぎ思春期研究会に委託 県教育委員会主催教員および保健師のためのピアカウンセリング研修会開催 教育委員会主催で県内6健康福祉センターにてピアカウンセリング講座の開催 思春期相談所“クローバーピアルーム”開設・運営をとちぎ思春期研究会に委託 ピアカウンセラーブラッシュアップ研修会開催 平成15年度第2回ピアカウンセラー公募 とちぎ思春期研究会ピアカウンセラー委託養成 県教育委員会主催教員および保健師のためのピアカウンセリング研修会開催 教育委員会主催で県内6健康福祉センターにてピアカウンセリング講座の開催 思春期相談所“クローバーピアルーム”開設
7	小山市	ピアカウンセリング講座の実施(12年目)	平成4年度管内保健婦業務研究会で小6年泳ぐ中学2年生とその保護者に対して性の実態調査実施 平成5年11月23日台1回ピアカウンセリング思春期講座を学校保健と連携して実施し、わが国のモデルとして思春期ピアカウンセリング講座の原型をつくる 以降平成15年度まで継続事業として実施 平成9年～平14年度まで、とちぎ思春期研究会と共催で思春期相談所“ピアハウス”を開設運営
8	新潟 (柏崎保健所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(4年目) 	平成12年度先進地福島県北保健所視察 平成12年度ピアカウンセラー指導者研修会“ピアカウンセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成13年度ピアカウンセラー現地養成およびピアカウンセリング講座の実施 平成14年度ピアカウンセラーの養成中央派遣およびピアカウンセリング講座の実施
9	東京	ピアカウンセリング	平成13年大学内でピアカウンセリング勉強

	(杏林大学保健学部)	グ講座の実施(3年目)	会開始 平成13年・14年度ピアカウンセラー中央派養成 平成14年・15年度ピアカンセリング講座の実施
10	長野 (長野保健所)	・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(4年目)	平成12年度長野市保健所にて“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成13年度長野県保健所にて“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成15年度ピアカウンセラー地元養成 平成15年度ピアカンセリング講座の実施
11	岡山 (川崎医療福祉大学)	ピアカウンセリング講座の実施(3年目)	平成13年度大学内でピアグループ結成 平成13年・14年度ピアカウンセラー中央派養成 平成14年・15年度ピアカンセリング講座の実施
12	岐阜 (岐阜県立看護大学)	・ 環境づくり ピアカウンセリング講座の実施(2年目)	平成14年度ピアカウンセラー指導者研修会 “ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成14年度大学内でピアグループ結成 平成15年度ピアカウンセラー中央派養成
13	兵庫 (柏原健康福祉事務所)	環境作り(予定)	平成16年1または2月にて講演予定
14	奈良 (桜井保健所)	環境作り(予定)	平成15年12月にて講演予定
15	高知	・ 環境づくり ピアカウンセリング講座の実施(5年目)	平成12年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演と自治ピアによるピアカウンセリング出前講座 平成13・14年度ピアカウンセラー現地養成およびピアカウンセリング実施 平成15年度ピアカウンセラーの養成中央派遣(厚生労働科学研究班実施)後ピアカンセリング講座の実施 思春期相談所“ピア相談所”開設予定
16	香川 (香川県看護協会)	・ 環境作り ピアカウンセリング講座の実施	平成14年5月“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演

		(1年目)	平成15年度ピアカウンセラーの地元養成 (厚生労働科学研究班実施) 予定 ピアカンセリング講座の実施予定
17	愛媛	環境作り	平成4年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演
18	徳島	環境作り	平成14年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演
19	福岡 (日本女医会)	環境作り	平15年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演
20	宮崎	・ 環境づくり ・ ピアカウンセ リング講座の実施 (4年目)	平成13年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成14年度ピアカウンセラー中央養成およびピアカウンセリング実施 平成15年度ピアカウンセラーの地元養成予定(厚生労働科学研究班実施) ピアカンセリング講座の実施予定
21	佐賀	・ 環境づくり ・ ピアカウンセ リング講座の実施(4 年目)	平成13年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成14年度ピアカウンセラー中央養成およびピアカウンセリング実施 平成15年度ピアカウンセラーの地元養成予定(厚生労働科学研究班実施) ピアカンセリング講座の実施予定
22	熊本	環境作り	平成13年度“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演
23	鹿児島	・ ピアカウンセ リング講座の実施(4 年目)	平成15年度ピアカウンセラー地元養成(厚生労働科学研究班実施) ピアカンセリング講座の実施予定
24	沖縄 (北部福祉保健事 務所・北部高等看護 看護学院)	・ 環境づくり ・ ピアカウンセ リング講座の実施(5 年目)	平成11年度ピアカウンセラー指導者研修会 “ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成12年度ピアカウンセラー現地養成およ

			びピアカウンセリング実施 平成13年度地域社会振興財団現地研修会開催“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演とピアカウンセラー養成講座 平成13年度ピアカウンセリング実施 平成14年度ピアスペース開設 平成14年度・15年度ピアカウンセラーの養成中央派遣（厚生労働科学研究班実施および）ピアカウセリング講座の実施
25	沖縄 (八重山福祉保健 事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(3年目) 	平成13年度ピアカウンセラー指導者研修会“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成14年度地域社会振興財団現地研修会開催“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演とピアカウンセラー養成講座 平成14年度ピアカウンセリング実施 平成15年度ピアカウンセリング実施
26	防府市 (山口県)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境づくり ・ ピアカウンセリング講座の実施(3年目) 	平成13年度先進地小山市視察 平成14年度ピアカウンセラー指導者研修会“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演 平成15年度地域社会振興財団現地研修会開催“ピアカウセリング手法による性教育の理解と関連機関との連携作り”のための講演と自治ピアによるピアカウンセリング出前講座受講

表2 ピアカウンセラール養成者(指導者)ベーシックセミナーカリキュラム

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
9:00		9:00	9:00	9:00	9:00
	受付 9:30 開講式 9:45	9:00	9:00	9:00	9:00
10:00	オーブニングエクササイズ (1h15min) ・ファンデルル・アイズアレク ・自己紹介	コ・カウンセリング 実習とふりかえり (2h) ・やり方の説明 ・やり方の説明 ・実習とふりかえり	構成的エンカウンター (2h30min) ・スリーデン	セクシャリティ総論 (3h) ・セクシャリティとは(松本亮)	試 験 (1h30min)
11:00	ピアとは (1h) ・仲間づくりのエクササイズ ・ピアとは	11:00 グループダイナミクスの基本知識 (1h) ・グループとは ・グループダイナミクス	11:30 実習のオリエンテーション (30min)	性的イメージ ・性的多様性(2つの特性) ・性的四つの視点	10:30 パネルディスカッション (2h) ・異性関係、コンドーム(15分) ・第15章(15分) 著者による
12:00	昼食	12:00	12:00	12:00	昼食
13:00	ピアカウンセリングとは ピアカウンセリングの基本概念 (1h) ・ピアカウンセリングの基本概念	13:00 集団ピアカウンセリングの実践 (1h) ・グループピアカウンセリングの進め方	13:00 構成的エンカウンター (3h30min) ・発表準備、リハーサル	13:00 セクシャリティ (5h) ・思春期から成人までの性的身体 ・若者と世代を超えて性による	昼食
14:00	8つの誓約 (2h) ・8つの誓約	14:00 構成的エンカウンターの 総論と演習 I (4h) ・SECCIは ・SECCIの種類 ・SECCIの使い	14:00	13:30 手ごめ・クロージング (45min) ・第15章(15分) 著者による	14:15 終了式 (15min) 解散
15:00					
16:00	基本的なピアカウンセリングスキル (2h) ・基本的な関係づくり ・グループワーク ・フィードバック		16:30 ピアカウンセリング専攻の 位置づけと展開に関する こと (1h30min) ・自己紹介(15分) ・実習(15分) ・発表準備(15分) ・リハーサル(15分) ・エンカウンター(5分)	14:30	
17:00				15:00	
18:00	夕食	18:00	18:00	18:00	
19:00	感情と向き合うスキル (1h40min) ・感情とは ・感情の種類 ・感情を表現する言葉 ・感情と向き合う3つのステップ	18:00 構成的エンカウンターの 理論と演習 II (2h) ・イメージエクササイズ	18:00	19:00	
20:00	要約・統合スキル (20min)		19:00	ピアカウンセラー養成 カリキュラムの理解 (2h) ・1つ1つ	
21:00					
※休題は途中、適宜入る ※セクシャリティとSGEのダブルカウント					
ピアカウンセリング専攻の 位置づけと展開に関する こと	0:00	0:00	3:30	2:00	8:15
ピアカウンセリングに関する 知識	8:00	4:00	0:00	0:00	12:00
セクシャリティに関する こと	0:00	0:00	0:00	8:00	8:00
SGE(構成的エンカウンター)に関する こと	1:15	6:00	6:30	1:00	14:45
その他	0:15	0:00	0:00	0:00	2:00
total	9:30	10:00	10:00	11:00	45:00

表3 ピアカウンセラー養成者(指導者)フォローアップセミナーカリキュラム

	第1日目	第2日目	
9:00		9:00	
10:00		ピアカウンセラー養成に関する 課題の解決に向けて(討論)	
11:00	11:00 開講式 11:15 オープニングエクササイズ ～再会の喜びを分かち合う～ (昼食含む) (1h45min)	(3h)	
12:00		昼食	
13:00	13:00 活動報告と情報交換 (5h)	13:00 環境作り コーディネーターや支援者との連携に ついて(討論) (2h30min)	
14:00			
15:00		15:30 まとめ・認定式	
16:00		16:00 解散	
17:00			
18:00	18:00 夕食		
19:00	19:00 エンカウンター (2h) ・自分自身の力を信じ、寄り添い続けるために		
20:00			
21:00	21:00 終了		
※休憩は途中、適宜入る			
ピアカウンセリング事業の位置づけに関すること	5:00	5:30	10:30
SOE(構成的エンカウンター)に関すること	3:45	0:00	3:45
その他	0:15	0:30	0:45
total	9:00	6:00	15:00

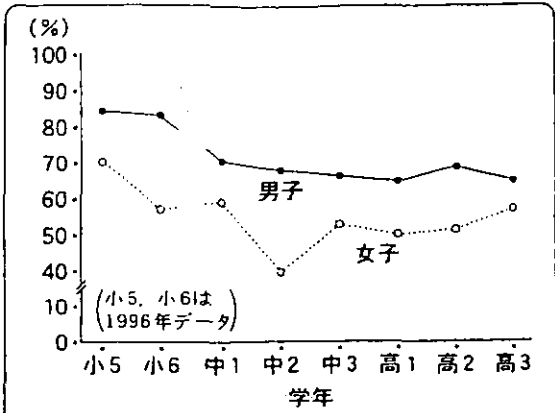


図1 自己の性の受容曲線
資料) 東京都幼・小・中・高性教育委員会(1999)



図2 アンドロギュノス
(人間の全一体性)

出典) 間宮武: 性の科学シリーズ1
『男と女 愛は女だけのものですか?』, 学校図書, pp. 6-7 (1994)

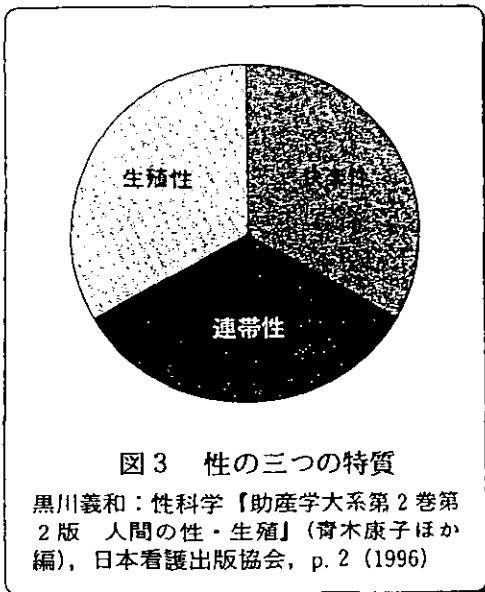


図3 性の三つの特質

黒川義和: 性科学『助産学大系第2巻第2版 人間の性・生殖』(齊木康子ほか編), 日本看護出版協会, p. 2 (1996)

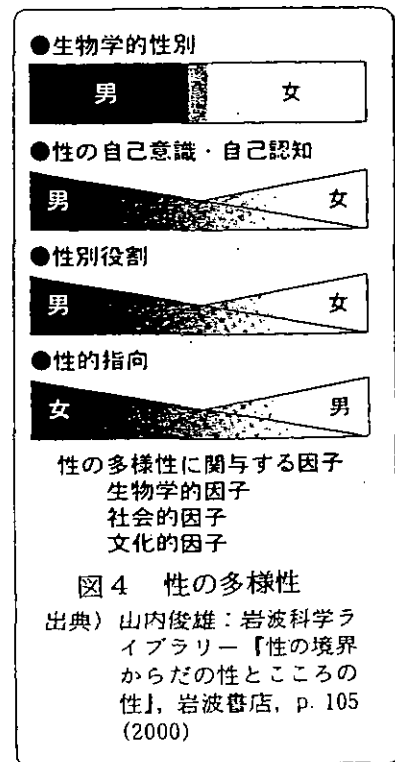


図4 性の多様性

出典) 山内俊雄: 岩波科学ライブラリー『性の境界からだの性とこころの性』, 岩波書店, p. 105 (2000)

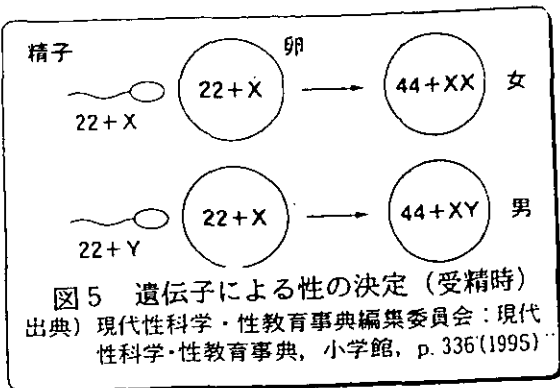


図5 遺伝子による性の決定(受精時)

出典) 現代性科学・性教育事典編集委員会: 現代性科学・性教育事典, 小学館, p. 336(1995)

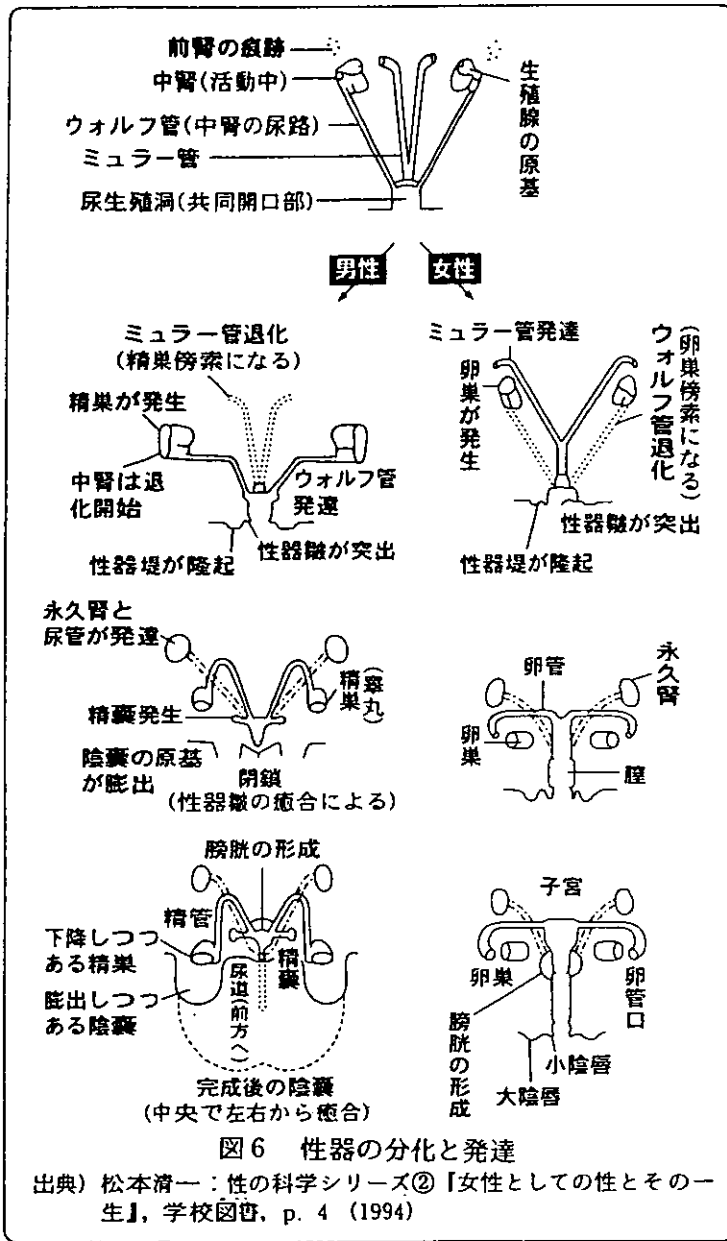
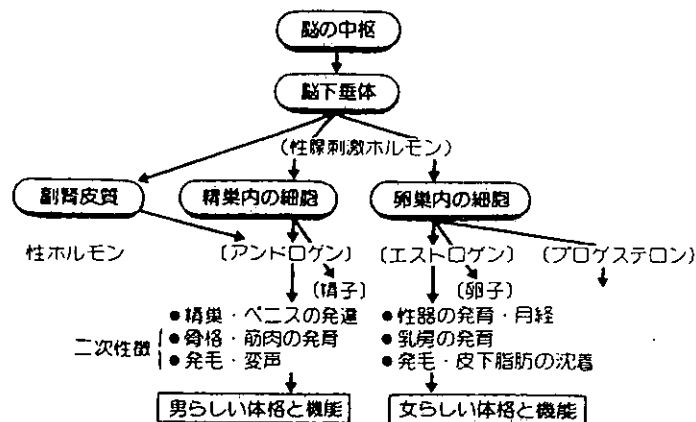
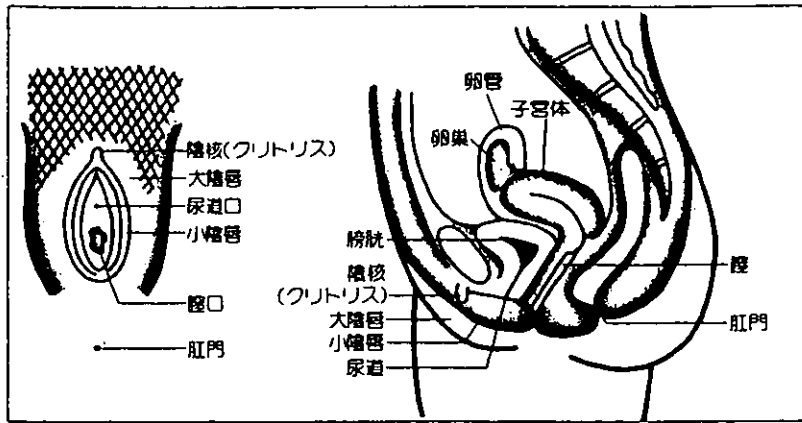


図7 二次性徴があらわれるしくみ



出典) ①山本直英他編著: 新版 セクソロジー、一橋出版、p. 16 (2000)

図8 女性性器



出典) ①、p. 11

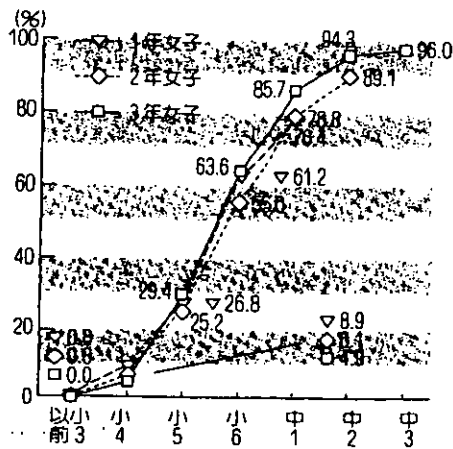
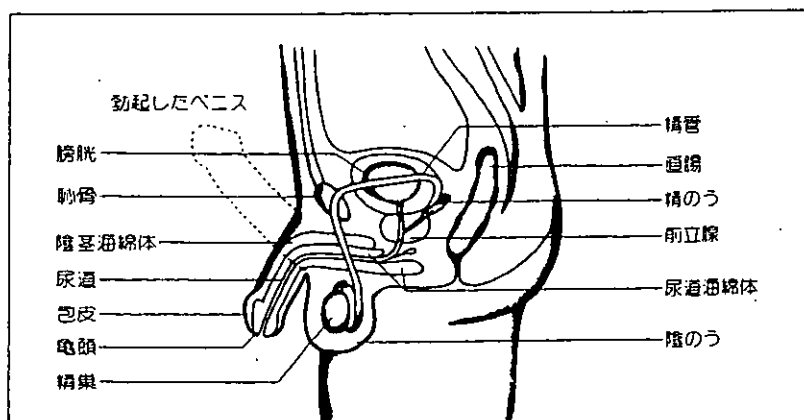


図9 月経初発年齢 (中3女子)

出典) ①、p. 13

▲東京都高等学校性教育研究会 (1999年)

図10 男性性器



出典) ①、p. 14

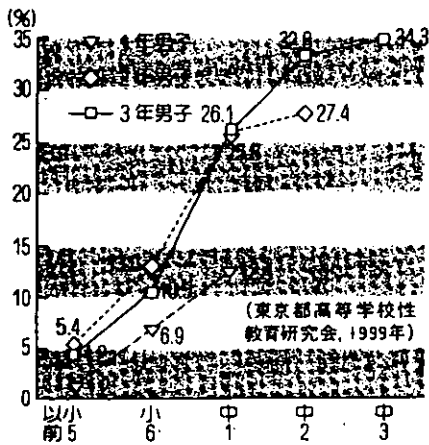


図 11 精通の経験 (中3男子)

出典) ①、p. 15



図 12 人間の求愛=12段階

出典) 現代性教育研究, 第17号, pp. 132-133. (1985)

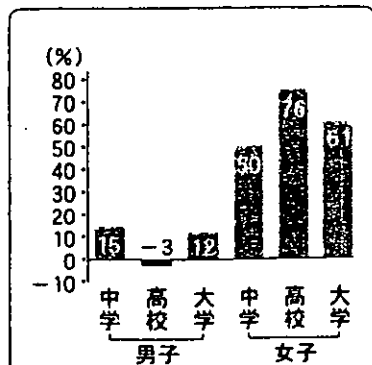


図 13 性の肯定的イメージ

の伸び率

注) 性について「楽しい」というイメージをもつ者の前回調査と比較した伸び率

出典) 日本性教育協会編: 青少年の性行動—わが国の中・高・大学生に関する第4回調査報告一, p. 13, 日本性教育協会 (1994)

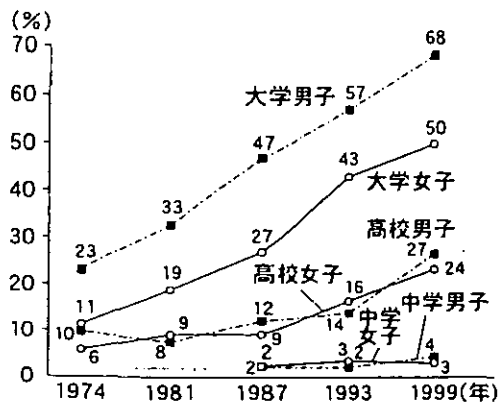


図15 性交経験率の推移

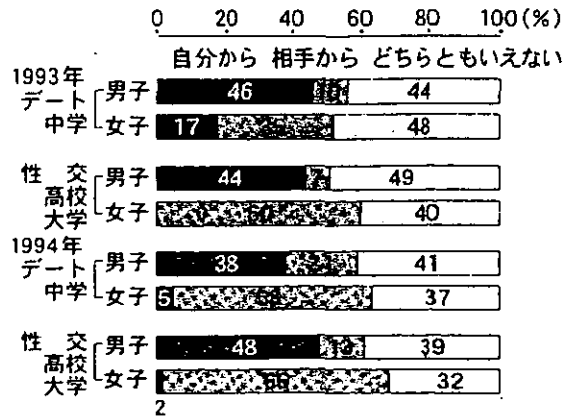


図14 性行動におけるイニシアチブ

出典) (図 3-4, 3-5 と) 日本性教育協会編: 青少年の性行動—わが国の中・高・大学生に関する第5回調査報告—, 日本性教育協会, p7, p9 (2000)

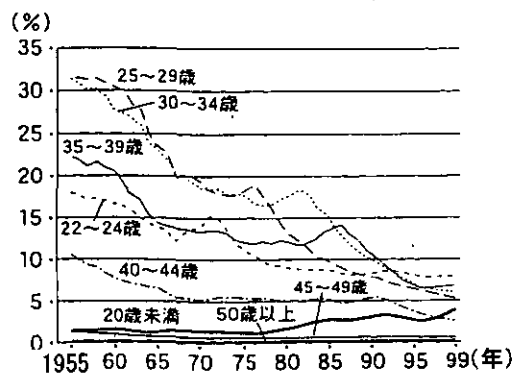


図16 人工妊娠中絶の推移